

.....編集後記.....

◆筑波では街路樹のこぶしの花が咲いて、春が近いことを知らせています。皆さんの所はどうですか。

◆ところで、今の日本は早急に解決しなければならないことが多くあり、新聞紙上にもぎやかです。コンクリート用に使う砂の安定供給の問題が環境問題と資源開発の接点で瀬戸内海地域で大揺れに揺れています。これらの砂は近畿地方より以東では沖積層や洪積層から採取されていますが、これらの地層の発達が狭小な西日本地域では海の砂に依存せざるをえなく、長い間、海底を掘り続けてきました。海砂の供給量は年当たり約3,500万m³で、世界の海底鉱物資源の採取量の約80%にあたります。これらの砂は交通網、建物など社会基盤の整備に使用されてきました。コンクリート構造物が劣化することを考えれば、今後も大量の砂が必要でしょう。砂資源を今後どのように確保していくかが重要な課題で、このためには、地質情報は不可欠な判断基準となります。地質学的に代替資源が存在しないのに、海砂の採取を全面禁止したとしたら、単に社会的混乱を作り出すだけに終わります。

瀬戸内海地域では環境と調和した海砂採取を模索するのが適当ではないかと愚考しています。

◆さて、地質調査所では組織の改組があり、地震地質部が発足しました。今回の特集記事は「地震地質部の発足と今後の地震研究」と題して行われた講演会の内容を紹介したものです。経緯・新体制について、および地震関連のいろいろな研究の現況と展望について紹介されています。これらの記事の中で、島崎氏の「地震との共存社会の実現に向けて」は地震のみならず地学教育の重要性などについて、平易な文章で大事なことが解りやすく紹介されておりますので、是非ご一読下さい。

◆機械技術研究所で地震予知の研究をしている榎本氏から前兆現象としての地震発光についての記事を寄せていただきました。地質屋には思いつかない発想かもしれません。

◆七山氏と吉井氏の記事は堆積物と鉱物資源情報に関する研究方法を紹介したものです。これらの記事は地学教育の普及に役立つと思いますので、皆さんが工夫された新しい実験方法がありましたら、是非、ご紹介ください。 (有田正史)

[訂正]

・1998年2月号no.522, 目次2行目

(誤)「宮地 良典・斉藤 眞」→ (正)「宮地 良典・河村 幸男」

地質ニュース編集委員会

委員長：有田正史

副委員長：石井武政

委員：佐藤興平・今井 登・村上文敏・大熊茂雄

顧問：林 暉・石原舜三・大嶋和雄・高橋 博

事務局：総務部業務課広報係(谷田部信郎・吉田朋弘)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-54-3520

Fax. 0298-54-3504

地質ニュース	第523号	1998年	3月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
1998年3月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 ケイ・トゥー・ワン		

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

©1998 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター、八重洲ブックセンター本店およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。